



発行日：平成 26 年 8 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 20 回川部会WGを開催しました！

第 20 回川部会WGでは、今年度 1 回目の地先モデルの検討を行いました。半日、バスツアーで、岡崎市で活動している「鹿乗川を美しくする会」、「鳥川ホタル保存会」を訪問しました。

日時：平成 26 年 8 月 29 日（月）13:00～19:00
集合場所：愛知環状鉄道新豊田駅、JR 東海道線岡崎駅
調査場所：鹿乗川（鹿乗川を美しくする会）
岡崎市ホタル学校（鳥川ホタル保存会）
参加者：17 名（事務局含む）



◆WGでわかったこと・決まったこと

- 鹿乗川を美しくする会との意見交換では、活動に対する助成金が不足していること、活動時の安全性の確保などが課題になっていることがわかった。
- 鳥川ホタル保存会との意見交換では、ホタルのために、小さいながらも流域全体を良くしようと山や水に関心を持ちながら活動を続けていることがわかった。その結果として、ホタルが自然発生する環境が育っている状況を確認することができた。
- アンケート調査の事務局案は、若干の修正を加えて、概ね了解された。その調査結果をもとに、懇談会に関心のある団体と交流する機会を持てるとよい。
- 事務局で作成したリストをベースに、矢作川研究所に協力いただいて、リストを強化することとする。

◆主な意見交換内容（●意見 ▶回答）

1. 鹿乗川を美しくする会との意見交換



岡崎市矢作川支所 1 F の会議室で、鹿乗川を美しくする会の江坂会長より活動内容や活動上の課題などの説明を伺い、意見交換を行いました。

- 昭和 59 年に矢作地域の 5 学区、37 町が集まってできたもので、主に以下の 3 つの活動を行っている。
 - ① 流域の草刈清掃活動（延長 5.2 km の左右岸において毎年 6 月に実施し、約 1000 人が参加。）
 - ② 流域の環境保全パトロール
 - ③ 用水路の清掃活動（春・秋の年 2 回）
- 手袋、お茶、パンなどの持ち出しの負担が大きい。また、草刈り機の油の補給の負担がある。
- H.25 年度に作業中に草刈り機取り扱い事故があったが、幸いにも軽傷で済んだ。今年度は、安全の徹底を図りながら実施した。



【意見交換】

- 活動は、全て町会の負担で実施しているか。
 - ▶ 一斉清掃の活動費として一人当たり 250 円（県の河川愛護活動報奨金＋岡崎市の河川美化団体助成金＋明治用水の助成金）が支給されているが、町会によって異なるが、参加者には軍手やパン・飲み物を支給するのが一般的で、町会の持ち出しが多い。（鹿乗川を美しくする会）
 - ▶ 草刈り機の提供者には、別途支給しており、これも学区で異なるが、ガソリン代含めて 1000 円としているところが多い。（鹿乗川を美しくする会）



2. 「活動団体アンケート」と「専門家リスト」に関する意見交換（バス内で）



バス移動時間を利用して、地先モデルで検討を進めている「活動団体アンケート」と「専門家リスト」について、意見交換を行いました。

【意見交換】

- ・アンケート調査の事務局案は、若干の修正を加えて、概ね了解されました。
- ・アンケート結果をもとに、懇談会に関心のある団体を招待して、交流会を開催してはどうか。（本守）
- ・地先の課題を把握するためには、すでに流域圏懇談会に参加している団体に対しても、アンケートを実施してはどうか。
- ・事務局で作成したリストをベースに、矢作川研究所に協力いただいて、リストに上げるべき人物を選別し、所属等の情報を追加してはどうか。（内田）
- ・ノミネートの了解を得るために各専門家に連絡する際に、専門家を紹介いただけてはどうか。（本守）

3. 鳥川ホタル保存会との意見交換



岡崎市ホタル学校の教室で、鳥川ホタル保存会の松田会長より活動経緯・内容などの説明を伺い、意見交換を行いました。

- 昭和 30～40 年代に、河道改修や非常に強い農薬が出回り、ホタルは絶滅状態になっていた。
- 平成 6 年に「鳥川ホタル保存会」を発足し、徐々にホタルが復活してきた。訪れる多くの方に水や山に関心を持ってもらおうと、ホタルの里の山歩きコースなどを開催している。
- 地域として生きていることになるには、地域内の連携、組織の強化はもとより、来訪者の思いを感じること、息づかいを活かしていくことが必要だと考えている。

【意見交換】

- ・ホタルだけでなく、ホタルが必要とする山や水を大事に育てているということに感銘を受けた。（本守）
- ・山歩きの道は延長も長いが、維持管理はどうしているか。（内田）
 - 他の団体にも呼びかけて、イベント前に登山道を整備している。中には、木を切ることに長けている山守り支援隊（主に岡崎市の方方で構成）がいて助かっている。（ホタル学校）
- ・旧鳥川小学校の生徒はどこに行ってしまったか。（光岡）
 - 4.0km ほど下流の豊臣小学校に行っているが、豊臣小学校の校区は広がったため、ときどきは活動に来てくれるがこれまでのようにはいかない。（ホタル学校）
- ・ホタルは自然に発生しているか。（本守）
 - 学習のためや試験的にホタルを飼育しているが、ほとんどは自然発生している。川のごみ拾いや赤土をまいたりして、保護活動を続けている。（ホタル学校）



説明の様子



資料室の様子



資料室の様子



散歩コースに設置するサイン



ホタル学校と鳥川

今後の川部会 WG の予定



■第 21 回（家下川モデル）

日時：平成 26 年 9 月 26 日（金）15:00～17:00

内容：段差解消に関わる関係者との意見交換、段差解消方法の検討

■第 22 回（本川モデル）

日時：平成 26 年 10 月 31 日（金）

内容：未定



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。

